



笑顔とやる気いっぱいの七中 生徒自らが常に鍛え続ける七中

七中だより



第 6 号 中野区立第七中学校 《学校だより》

令和6年11月14日

いじり？ いじめ？

校長 上村 諭

前期に全校生徒から「クラスで一番成績のよい、Aさんにテストが返された場面」を想定して、その声かけに『OK』『NG』を答えてもらいました。

- ① 今日テストの返却の日。クラスで一番成績のよい Aさんにテストが渡された瞬間……
- ② 「Aさん、キター！」
- ③ 「100点！ 100点！」と、Aさんに対するいつもの“いじり”が始まりました
- ④ 誰かが「ここまで盛り上がり、100点じゃなかったらウケる！」と言うと
- ⑤ 「確かに！」とみんなも言って笑いが起こりました。
- ⑥ Aさんも笑顔で、「プレッシャーがハンパないなあ」と言いました。



(参考) NHK for School 「いじめをノックアウト」 『“いじり”から考える友達関係』

興味深いのは、①から⑤にかけて『OK』が減っていきましたが、最後の⑥の場面で『OK』と考える生徒が増えたことです。そこで「すべての場面がOK」とした生徒に「なぜOKか？」を聞いてみました。

「Aさんが笑っていて楽しんでいるから」

「いつものイジりで、Aさんが「プレッシャーがハンパないなー」と言って、嫌がっている表情がないので傷ついてない」

「Aさんのセリフから不快には思っていないと感じた。クラス全員が楽しんでいるし、先生も注意をしてないから大丈夫だと思う」

とのことでした。

笑いが子供のなかで果たしている役割を研究している伊藤理絵先生は「“いじり”は、とても高度な技術を必要とする笑いだと思う」と答えています。なぜなら「笑い」には「人と仲良くなる笑い」と「傷つけたくなくても傷つけてしまう笑い」の両面があるからです。

今回は中学校の身近な話でしたが、これは幼い子供達でも起こるといいます。

「いやだ」と言えば周りは気付くことができますが、クラス全体がいじって盛り上がっているのに自分が「いやだ」と言って盛り下がってしまったらどうしよう……と思うと言えなくなってしまう。

気持ちは、表情では読み取れません。

最後に、伊藤先生が中学生だった頃、いじられたり、成績のよさだけで評価されたりすることに、モヤモヤを抱えていたといいます。ところがある日、クラスメートが「いつもすごいと思ってるよ」と声をかけてくれたそうです。自分が悩みや苦勞を抱えていることを分かってくれた気持ちがして、そのときのクラスメートの笑顔が心に残っていると言います。

「時がたっても残っているのはその子のやさしい笑顔なので、そういうことを考えると、盛り上がることだけが相手と仲良くなる笑いではない」

もし、この話で何かちょっとでも気付きがあればいいなあと思います。 (後期 始業式の講話から)

中野区中学校総合体育大会 連合陸上競技会

9月24日（火）に国立競技場で区内の中学校で競い合う「連合陸上競技大会」が開催されました。心地よい気候のなかで、出場した代表選手の他に、3年生全員で競技場を周回する「FUN RUN」や40人リレー（第2位）など、大いに盛り上がりました。女子は総合で第8位となりましたが、男子の総合は0.5ptの僅差で惜しくも入賞を逃しました。



入賞した生徒

[男子]		[女子]	
共通 200m 7位	3年 組	1年 100m 7位	1年 組
400m 6位	2年 組	2年 100m 2位	2年 組
800m 6位	3年 組	共通 200m 8位	3年 組
1・2年 1500m 2位	2年 組	800m 8位	3年 組
3年 1500m 8位	3年 組	1500m 5位	3年 組
1年 100mH 6位	1年 組	1・2年 100mH 3位	2年 組
2年 4×100mR 3位		3年 100mH 7位	3年 組
2年 組	2年 組	1年 4×100mR 7位	
2年 組	2年 組	1年A組	1年 組
共通 4×100mR 5位		1年A組	1年 組
3年 組	3年 組	2年 4×100mR 4位	
3年 組	3年 組	2年B組	2年 組
走幅跳 6位	3年 組	2年B組	2年 組
砲丸投 4位	3年 組	共通 4×100mR 8位	
		3年A組	3年 組
		3年C組	3年 組
		走幅跳 7位	3年 組



公共の場などの利用について

生徒の公共交通機関や公共の場の利用方法について、他の利用者様にご迷惑をおかけしているとお声をいただいています。

今後、生徒の通学や居場所などで利用が増えてくることが考えられます。

全校集会や学級活動などで、指導をしているところではありますが、利用の方法について、ご家庭でもお話しいただけるようお願いいたします。